



地域を育み、
大陸をつなぐ

Weekly



・会 長 山田 直樹 ・例会日 毎週金曜日 12:30
 ・幹 事 唐井 仁一 ・例会場 〒488-0801
 ・会 報 井田 武憲 尾張旭市東大道町原田 2570-3

・事務所 尾張旭市商工会館 TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945
 E-mail : owariasahi@mtc.biglobe.ne.jp
 URL : http://www5b.biglobe.ne.jp/~owariasahi/

本 日 第1963回 2011年5月6日(金) No.1854

本日のプログラム Today's Program

卓話者:西尾会長エレクト・森副幹事・井田次期クラ
 フ奉仕・福岡次期広報・唐井次期国際・
 古橋(裕)次期新世代奉仕委員長

点 鐘

演 題:「地区協議会参加報告」

ロータリーソング 「君が代」・「奉仕の理想」

前 回 第1962回 2011年4月22日(金) 記 録

斉 唱:「日も風も星も」
 来訪者:なし
 出席者:会員29名中23名出席 出席率79.31%
 前々回補正出席率は4月8日分89.66%

挙の結果尾張旭市では初めて自民党系の議員が当選を果たしました。その方の当選後のお話の中で興味をもったことがありました。「手ごたえを感じる」ということについてです。選挙期間の最初のころは街頭での演説でも、集会での討論会においても全然反応を感じられなかったそうですが、終盤になって握手ひとつとっても確実に自分に支持が集まってきているという実感があり、これはいけるのではないかとこの思いをいざいざとすることができたとされています。手ごたえを感じるのが、今の首相にあるでしょうか。国民の声を真摯に受け止めることをまずやってほしいです。そこからようやく道筋がみえてくるのではないのでしょうか。

会長あいさつ 山田 直樹

先週の地区協議会にご参加いただきましたメンバーの皆さまご苦労さまでした。松前ガバナールエレクトのご回復を心より祈ります。街は、新緑が目まぶしい季節を迎えました。私はこの季節が大変好きです。通りには花ミズキのはなが咲きはじめました。我が家の花ミズキは咲くには咲くのですが例年いまひとつの状態とどまってしまう。まわりはどこもきれいに咲いているのになぜとってしまいます。残念でしかたありません。花ミズキは街路樹として植えられ始めたのは1980年代だそうです。言われてみれば、昔はあまり見たことがなかったなと思います。私の感覚ではひとつばたこも最近になってポピュラーになってきたと思います。はなみずきは昔日本から贈られたサクラの返礼として米国から贈られた親善の木だったそうです。英語名ドッグウッドと言います。戦争により敵国の木になってしまい、切られたりして原木は姿を消してしまったそうです。さらに、西洋では、キリスト処刑の十字架の木に使用されたという言い伝えがあり、悲運を背負った木なのです。そういう話もあって私はこのはなを愛していたいと思います。さて先日の県会議員選

幹事報告

- ・4/15 第3回40周年記念誌委員会 於商工会館 井田委員長以下5名出席。
- ・4/16 地区協議会 於ウエスティンゴッパキャッスル 西尾会長エレクト以下12名出席。
- ・4/21 手をつなぐ親の会 総会 於渋川福祉センター 水野社会奉仕委員長出席。
- ・4/21 地域活動連絡協議会 総会 山田会長出席。
- ・本日の会合:第4回40周年記念誌委員会
- ・次回の例会:4/29(昭和の日)で法定休日休み。
- ・次回の会合:5/6 第14回現・次期理事役員会
5/6 第5回OFDY現・次期委員会
- ・例会変更のお知らせ:別紙。

	5月13日(金)	5月20日(金)	5月29日(日)	6月3日(金)
例会予定	卓話者:桜井 雅博君 演 題:「広報のあり方とコンピュータの活用について」	卓話者:森 功 弘委員長 演 題:「寄付社会について」	27日(金)振替日 環境保全活動 ゴミゼロ運動	卓話担当者:高島 昇君君 卓 話 者:大竹由紀子様 演 題:「癒しのハーモニ」

ニコボックス

初めての卓話です。よろしくお願いいたします。

伊豆原 浩二君

伊豆原先生の卓話を楽しみにしています。

桜井 雅博君

伊豆原浩二君の卓話を楽しみにしています。

加藤 清久君、唐井 仁一君

先週の地区協議会にご参加の皆様、ご苦労様でした。また、その後の懇親会も楽しく過ごしました。ありがとうございました。

山田 直樹君

4月16日をもって連合自治会長を退任いたしました。

唐井 仁一君

今年度、初めて平穏なロータリーです。大野さんのご活躍をお祈りします。

加藤 清久君

唐井さん、お互いに気持ちは若いですが、体は言うことが効きません。お大事に無理しないでください。

古橋 裕志君

家内が大変お世話になっております。ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

丹羽 敏行君

桜も散って新緑が楽しみです。

富田 晃君

残念ですが早退させていただきます。

西尾 輝久君

おー忙しいです。お先に失礼します。森 和実君
忙しの君 水野 幸彦君、箕輪 良孝君

第4回記念誌委員会報告

日時 2011年4月15日(金) 13:40~

場所 尾張旭市商工会館 事務局

議題 1)レイアウト、その他の件
各年度の写真等を調べた。

卓話

最近の地域公共交通の状況

- バス交通を中心として -

伊豆原 浩二



東日本大震災では莫大な被害となり、原発事故も大変なことになっています。交通を専門としていますが、こんな中で、新幹線をはじめとする鉄道の分野での事故は無く、我が国の技術は凄いいと思います。

今日のお話は地域の公共交通についてです。尾張旭のコミュニティバス「あさぴー号」はご存知ですね。この「あさぴー号」は平成15年度から検討が始まりました。最初は「尾張旭市交通問題対策協議会」で試験運行へ向けての検討委員会の設置と予算措置の提案、平成

16年度から「尾張旭市交通問題懇話会」で試験運行の実施を検討し、12月の試験運行以降3回の見直しを経て、平成20年4月から本格運行に移っています。特徴は2つの会とも市民だけの組織で、行政は事務局を担当したことで、このような仕組みは県下でも例がありません。ここでの委員の経験者が主となって市民組織「あさぴー号を育てる会」ができて活動しています。利用者は最初は約130人/日だったのが、本格運行後では約500人/日近くまで増加しています。

このようなコミュニティバスは中部運輸局管内では約90%近くの自治体で導入されており、その目的は高齢者福祉、交通空白地の解消が多くなっています。地域の路線バスはどんどん廃止され、それに伴ってコミュニティバスのルート数が増加しています。我が国のコミュニティバスの先駆けは、武蔵野市の「ムーバス」です。このきっかけは一人の主婦が市長へ公共交通の不便さを訴える手紙を出したことでした。我が国では地方自治体がバス事業者となることは公営企業体以外では無く、武蔵野市が初めてだったわけです。バス停は間隔を高齢者の歩行距離から200mとし、名前と大きな数字と色で表示、料金は大人・子供とも一律100円(小学生未満は無料)という画期的なものでした。これをきっかけにコミュニティバスは全国へ広がっていきました。もう一つの事例を紹介します。

秀吉の醍醐の花見で有名な京都伏見区の「醍醐コミュニティバス」です。これは地域の住民が自ら立ち上げたバスです。京都の地下鉄の開業に伴って市営バス路線が再編され、都心部への利便性は向上したのですが、地区内は返って不便になってしまったのです。地区の住民は改善の要望をしたのですが、聞き入れられなくて結局自分たちが立ち上がってコミュニティバスの運行にこぎつきました。サービス内容などは自分たちで考え、単なる交通システムではなく様々な「市民活動の架け橋」と位置づけています。

このような現象の背景についてお話しします。平成8年に当時の運輸省は需給調整規制の廃止を決定、翌9年「規制緩和推進計画」を閣議決定しています。これは橋本内閣のときです。需給調整規制とは、概に云えば「赤字路線があっても企業全体として収支が取れていれば廃止は認めない、その代わりに黒字路線には他社の参入を認めない」とするものです。それを路線ごとに見て、赤字路線の撤退を認め、黒字路線への他社の参入を認めるというのが需給調整規制の廃止です。平成14年に道路運送法の改正によって施行されました。その後、どんどん廃止路線が増加したので、平成18年再度道路運送法を改正し、住民、事業者、行政関係者、学識経験者などで構成する「地域公共交通会議」という制度を設けて地域の公共交通に関する議論をし、合意形成された事項について認めていく形になりました。翌19年には地域公共交通活性化・再生法が出来て、より権限を持った「法定協議会」の制度を設け、バスだけでなく他の交通手段についても議論して合意形成を目指すことになりました。

今年に入って、3月8日には「交通基本法」が閣議決定されて、国会へ上程されています。この法律は当初「移動権の保障」を掲げて、昨年多くの学識経験者や関係者で議論されたのですが、「移動権の保障」という言葉は無くなり、後退している感否めませんが、「まちづくり」と一体となって進めるとしています。これからどのような議論がされていくかについて注目しているところです。

